

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

閑話休題—年末年始の話題

①サンタクロース—その①

隣の高校 3 年生が、まだ小学校 3 年か 4 年生だった頃。うちの家でクリスマス会をした際の、その子と友人との会話。

「おい、U! クリスマスプレゼント、誰からももらった?」「**サンタさん!**」

「ウソつけ。サンタなんて、まだ信じてんのかよ?」

「ウソじゃないよ。お父さんがヨーカ堂に行った時に、サンタさんにバッタリ会ったんだって。

『ちょっと忙しくて家に行けないから、代わりにU君にこれを渡して欲しいんだ』って頼まれたんだって」

「幸せ者だな、お前は」

* 家の近所のイトーヨーカ堂にも出没するなんて、サンタさん、あんたもやるねえ。

②サンタクロース—その②

22 歳の甥がまだ小学校 4 年生の頃。義姉は、クリスマスの前に物凄く困って焦っていた。

「クリスマスプレゼントを買いに行きたいんだけど、『何が欲しい?』って聞いても教えてくれないのよ。『サンタさんに頼んだから大丈夫』って。

『ママにもちょっとだけ教えて』って頼んでも、『ダメ』って頑張ってる。

『サンタさんには、どうやって頼んだの?』って聞いたら、『手紙を書いた』って言うから、この前から家のあちこちを探してるけど見つからない。

もうクリスマスになっちゃうし、どうしよう?」

見かねた連れ合いが、代わりに聞いた。「サンタさんは忙しいから、手紙を発見できないかもよ。ヒントを貼って置いたら?」

「サンタさんは、世界中の子どもが欲しい物が分かるのに、僕の欲しい物だけ分からないの?」「そんなはずないよ!」

The end. サンタさん、あんたも罪だねえ。クリスマスの前日、ついに「手紙」を発見した義姉は、無事プレゼントをゲットしたとき。めでたし・めでたし。

③正月に“迷子”に

私が小学校の頃、年末年始の駅前は相当混み合っていた。年末は正月準備の買い出しで、正月は駅近くの神社の初詣で。

歩き疲れて喫茶店で休もうにも店はどこも休業。営業しているお店は【**正月料金**】でかなり割高。

さて、9 歳の頃。家族 5 人で初詣に出かけ、お参りを済ませたの帰途。バス停まで歩くのに一苦勞。父親は、家族が付いて来ているかどうかは関心なし。一人ですんずん歩いていく。背中を見失わないように必死について行ったその時、目標とする背中が地下街に降りた。「あっ!」と慌てた僕は、大急ぎで地下に降りたが父を見失った。焦って地上に戻ったが、家族はもう誰も見えない…。

途方に暮れた僕は、しばらくあたりを探し回ったが、結局誰も見つからない。『こうなったら歩いて帰るしかない』—子どもの足で 1 時間くらいだったろうか—。みんなが帰って来た時、僕は玄関前で出迎えた、「お帰り」。「お帰り、ちゃうわ!」と、どえらく怒られたのは言うまでもない。

どうぞよいお年をお迎えください